

スライドカンファランス

<症例 3 >

症 例：80歳代，女性。

既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：右乳房に3cm大の腫瘤を自覚し来院。マンモグラフィーでカテゴリー4の境界不明瞭な高濃度腫瘤を認め、腫瘤に対し穿刺吸引細胞診を施行。

検 体：右乳腺穿刺吸引。

回答者診断：悪性リンパ腫。

出題者解答：悪性リンパ腫。

解 説：細胞像は、ライトグリーン好性を示す顆粒状物質を背景に、N/C比が高く裸核状で小型均一な異型細胞が、散在性に多数出現していた。核は類円形で一部にくびれ等の不整形がみられ、クロマチンは顆粒状に増量し核小体がやや目立った(写真1)。しかし、一部の視野では顆粒状の胞体を有するような異型細胞が集塊状にみられた(写真2)。以上の細胞所見より、悪性リンパ腫を強く疑ったが顆粒細胞腫の可能性も否定できなかった。

その後、同部位より針生検を施行し悪性リンパ腫と組織診断され、右乳房部分切除術が施行された。腫瘤

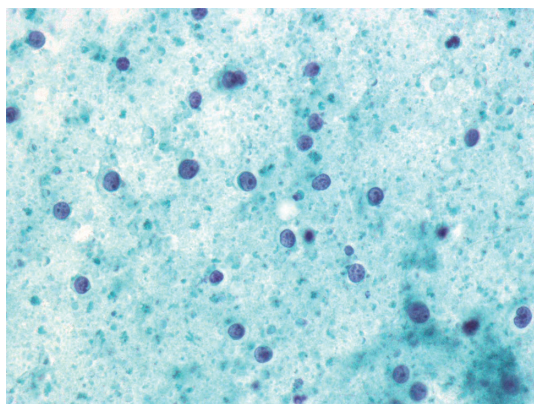


写真1 顆粒状物質を背景にN/C比の高い小型異型細胞が散在性に出現。核は類円形で一部にくびれ等の不整形がみられ、クロマチンは増量し核小体がやや目立つ(Pap.染色, ×40)。

は出血を伴い灰白色調を呈し境界は一部不明瞭であった。組織像は、クロマチンの増量を示す異型単核細胞がびまん性に増殖していた(写真3)。また、starry sky像が認められた(写真4)。免疫組織化学染色で異型細胞は、CD20陽性、CD79a陽性、CD3陰性を示した(写真5)。通常のびまん性大細胞型Bリンパ腫より腫瘍細胞はやや小型で、malignant lymphoma diffuse large B cell type Burkitt likeと診断された。

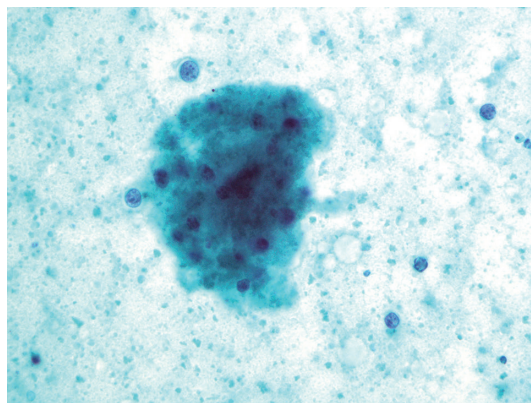


写真2 顆粒状の胞体を有するような異型細胞が集塊状にみられる(Pap.染色, ×40)。

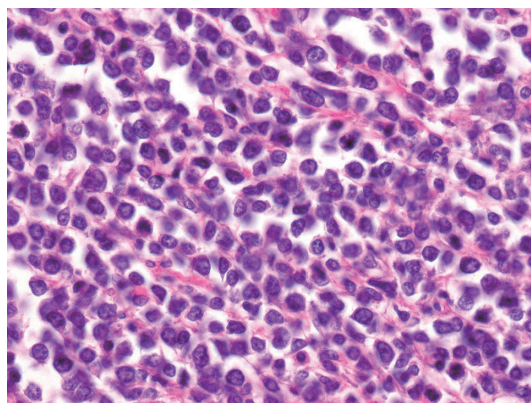


写真3 クロマチンの増量を示す異型単核細胞がびまん性に増殖する(H.E.染色, ×40)。

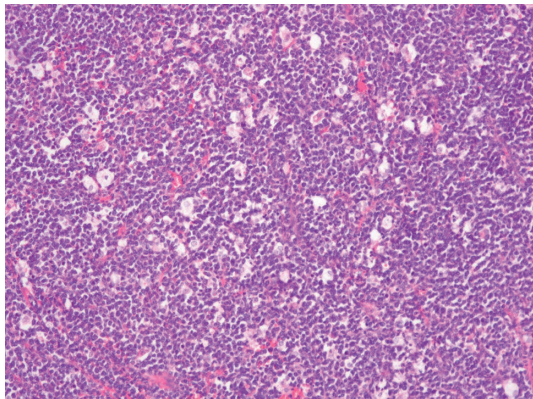


写真4 starry sky がみられる (H.E. 染色, $\times 10$).

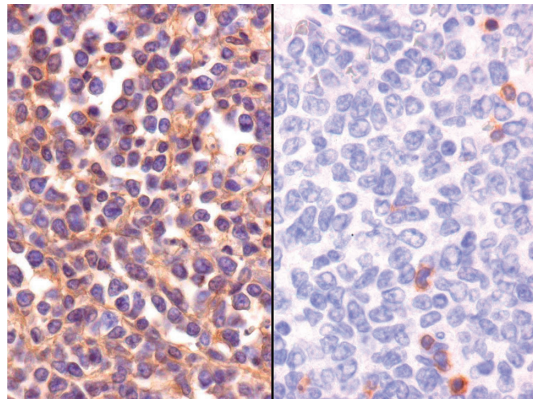


写真5 左: CD20 (+), 右: CD3 (-) (免疫組織化学染色, $\times 40$).

乳腺原発悪性リンパ腫は乳腺悪性腫瘍の0.04~0.53%とまれな腫瘍であり^{1,5)}, ほとんどの場合B細胞リンパ腫でびまん性大細胞型が最も多い⁶⁾. 乳腺原発悪性リンパ腫とする条件は, ①病理診断が確実に悪性リンパ腫であること, ②乳腺組織と悪性リンパ腫が密接に関係していること, ③同側腋窩リンパ節以外に全身性の悪性リンパ腫や乳腺以外の悪性リンパ腫を認めないこと^{2,5)}. とされており, 本症例はすべての条件を満たしていると確認された.

本症例の背景にみられた顆粒状の物質は, 顆粒細胞腫にみられる微細な好酸性顆粒よりも粗大であり, 悪性リンパ腫を穿刺吸引した際に生じる細胞質断片とされる lymphoglandular body³⁻⁵⁾ と考えられた. また, 集塊状にみられた異型細胞の核所見と散在性に出現した異型細胞の核所見は類似しており, とともに悪性リンパ腫の細胞と考えた. 文献によると, 節外性悪性リンパ腫は結合織に浸潤することが多く, これが腫瘍細胞の結合性を強くする可能性も考えられる⁷⁾ とあり, 本症例にみられた集塊状の細胞像もそれを反映していると考えられた. 乳腺原発悪性リンパ腫を診断する際には, 背景の lymphoglandular body を壊死物質や顆粒物質としないよう注意が必要であると考えた.

筆者らは, 開示すべき利益相反状態はありません.

文 献

- 1) Mambo, N.C., Burke, J.S., Butler, J.J. Primary malignant lymphomas of the breast. *Cancer* 1977; 39: 2033-2040.
- 2) Wiseman, C., Liao, K.T. Primary lymphoma of the breast. *Cancer* 1972; 29: 1705-1712.
- 3) Bangerter, M., Herrmann, F., Griesshammer, M., Gruss, H.J., Heimpel, H., Binder, T. The abundant presence of Söderström bodies in cytology smears of fine-needle aspirates contributes to distinguishing high-grade non-Hodgkin's lymphoma from carcinoma and sarcoma. *Ann Hematol* 1997; 74: 175-178.
- 4) Söderström, N. The free cytoplasmic fragments of lymphoglandular tissue (lymphoglandular bodies). A preliminary presentation. *Scand J Haematol* 1968; 5: 138-152.
- 5) 鮫島千恵, 北村隆司, 根神仁志, 津田祥子, 楯 玄秀, 塩川 章・ほか. 穿刺吸引細胞診にて診断しえた乳腺原発悪性リンパ腫5例. *日臨細胞誌* 2005; 44: 298-303.
- 6) 竹内賢吾. 乳癌II-組織型診断のコツ-悪性リンパ腫. *病理と臨床* 2008; 26: 1165-1168.
- 7) 淀縄 聡, 平野 稔, 小川 功, 高谷澄夫, 下山田博明. 乳腺原発悪性リンパ腫の1例. *日臨細胞誌* 2000; 39: 410-411.